

こてん

古典がおいしい！平安時代のスイーツ



まえかわ かよ / 著 ししど よしみ / 著

かもがわ出版

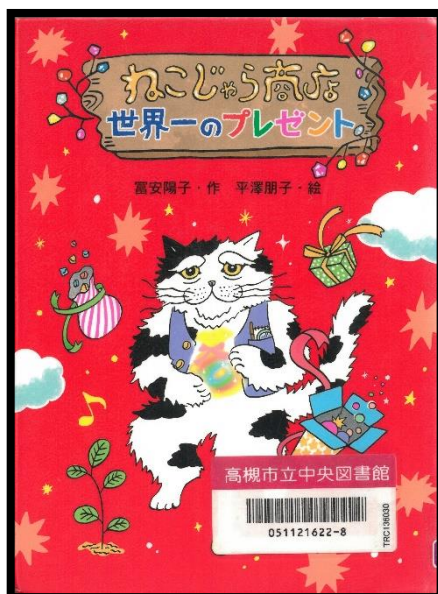
[383]

古典文学作品の中においしいようなスイーツがでできます。「枕草子」では、けずり氷。「源氏物語」は、つばきもち。材料はもち米や小豆ですが他には、あけび・やまいも・れんこんなどもお菓子として食べられていました。

けずり氷は冬に氷を作り、氷室で夏まで保管し、樹液シロップの“あまづら”をかけたものです。

古典のお話を読んだ後、1000年前のスイーツを手作りしてみませんか。

ねこじゃら商店 世界一のプレゼント



とみやす ようこ / 作

ひらさわ ともこ / 絵

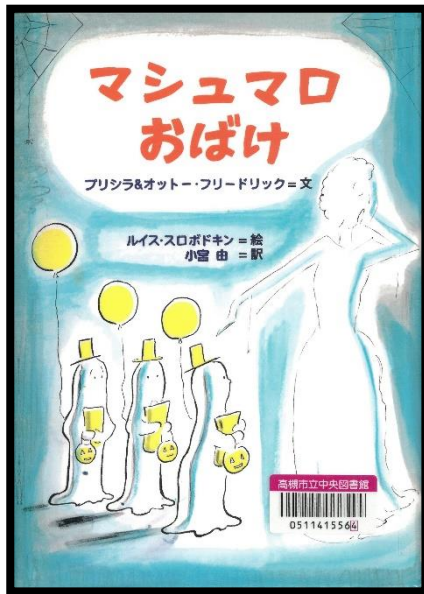
ポプラ社[913トミ]

なんでも手にはいるお店「ねこじゃら商店」には、いつでも行けるわけではありません。道すじを知っているのは気まぐれなネコだけ。買い物をするためには、ふたつのルールを守らなければなりません。

町一番のお金もちのおじょうさんにわたす世界一のプレゼント、わすれてしまった歌など、お客たちのほしいものはさまざまです。あの白ひげのおじいさんだってひみつでやってきます。

『ねこじゃら商店 へいらっしやい』のつづきのおはなしです。

マシュマロおばけ



プリシラ&オットー・フリードリック/文

ルイス・スロボドキン/絵

こみや ゆう
小宮 由/訳

瑞雲舎〔933フリ〕

ふるびた家^{いえ}におばけ^{かぞく}の家族がすんでいます。エスターおばさんと、その子ども^{こども}のジェームズとジョイスとショーンです。

あるハロウィンのよる、おばけの家族はスーパーマーケットへ出かけました。おばけの子どもたちは、ならんでいたマシュマロをこっそり食べてしまいます。すると、なんとすがた^たをけすことができなくなっていました。

ハロウィンのよるを過ごすおばけたちのふしぎなおはなしです。

わたしは反対！ 社会をかえたアメリカ最高裁判事 R B G



デビー・リヴィー/文 エリザベス・バドリー/絵

さくま ゆみこ/訳

子どもの未来社〔エ〕

そう遠くない昔^{むかし}、女性はリーダーになったり、重要なことを決めたり、ビジネス界や政府で仕事をするのにはふさわしくない^{せいふ}と多くの人は考えていました。

そんな考え方はおかしいと思っていたルースは、社会の考え方を^{ほうりつか}変えるために法律家を目指します。

アメリカ最高^{さいこう}判事^{はんじ}のルース・ベイダー・ギンズバーグは、時代おくれの考え方^{ふこうへい}、不公平^{ふびょうどう}に「わたしは反対！」という声をあげ、一歩ずつ社会をかえていったのです。